

持ち運びが便利な双胴舟



鵜飼い漁で利用される双胴舟（標本資料H0191102）



自転車にカワウと双胴舟を乗せて次の漁場に向かう
(湖北省荊州市)



双胴舟に乗り、竹棒を使って移動する漁師たち
(湖北省荊州市)

国立民族学博物館の中国地域の文化展示場において、鵜飼い漁で利用されているユニークな舟をみるができる。全長一八九cm、幅四二cm、深さ三五cmの小舟を二つ横に並べ、それを棒でつないだ舟である。この舟は二つの船体からなるため双胴舟ともよばれる。収集年は一九九二年、収集場所は湖北省当陽市である。

いまから四年ほど前、わたしは湖北省当陽市に近い荊州市の河岸を歩いているとき、双胴舟を使って漁をする鵜飼い漁師たちに出会ったことがある。漁師たちは、四羽のカワウを乗せた双胴舟を自転車に備え付け、河岸を急ぎ移動しながら漁場に向かっていった。そして、漁場付近に到着すると自転車から舟を下ろし、そのまま水面に浮かべて漁を始めた。三〇分ほどで漁を終了すると、彼らは漁獲物の入った舟を水面から担ぎ上げ、河岸に止めてある自転車で乗せたあと次の漁場へと向かっていった。一連の操業風景をみていたわたしは、到着から漁の開始、漁の終了から移動にいたる手際の上と、その間まったく逃げるようすをみせないカワウに驚いたことを覚えている。

この双胴舟がいまでも利用されているのには理由がある。それは持

ち運びが便利だからだ。この地域の鵜飼い漁は、おもに河川で行われている。同じ漁場で漁を続けると漁獲量が下がるため、漁師たちは一日に何度も操業する場所をかえる。漁場を移動する場合、並行して流れる複数の河川がクリークなどで通じていれば、そこを通ることができる。しかし、この地域では複数の河川を横につなぐクリークがない。このため、漁師たちは陸上を移動することになるが、このとき大型の漁船を利用していると、船の移動や上げ下げに手間がかかる。一方、この双胴舟は小型で非常に軽く、自転車やバイクに簡単に乗せることができる。わたしも双胴舟を持たせてもらったが、軽々と持ち上げることができた。

短い時間でいかに効率よく魚を獲るのか。これは、鵜飼い漁をいまでも生業として続ける漁師たちにとって本質的な問いである。この問いに対する漁師たちの答えが、双胴舟の利用と漁場を次々と移動するという操業の方法なのである。無駄なものを一切そぎ落とした双胴舟は、今日もどこかの河岸を急ぎ移動していることだろう。

(卯田宗平)